
「海の生き物を守る会」メールマガジン No. 75

2011.3.16 (水)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

「今日の海の生きもの」 **イボヤギ** *Tubastraea coccinea*

腔腸動物イシサンゴ目キサソゴ科のイボヤギ属に属する動物。サンゴ礁を作るイシサンゴの仲間だが、温帯の浅い海に生息し、イシサンゴよりも低温に強い。下潮間帯の岩の下などの潮通しの良く暗いところに生息しており、多くのイシサンゴ類と異なって褐虫藻との



共生はみられない。群体はやや盛り上がった塊状もしくは被殻状になる。個虫には、石莖(せっきょう)とよばれる円筒状のものがああり、石莖から色鮮やかなポリブが出てくる。色は、

ポリブは黄色からオレンジ、群体は赤色を呈することが多い。

(山口県上関町長島にて 向井 宏撮影)

目次 「今月の海の生きもの」 イボヤギ

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース
2. 海の生き物を守る会活動予定
3. 海の生き物を守る会活動報告
4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報
5. きらめく動物たちの命と海 久保田信の白浜便り（その2）
6. 海の生き物とその環境に関する論文・本・DVD など
7. 事務局便り
8. 編集後記

震災に遭って亡くなられた人々と海の生き物に

深く哀悼の意を表します

1. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

【北海道】

●子供のアザラシ 港湾で保護続々

小樽市内の港湾施設で衰弱したゴマフアザラシが次々見つかっている。おたる水族館では2月末からすでに3頭を保護した。小樽港マリナーでは、ゴマフアザラシがぐったりとしているのを職員が見つけて保護した。また小樽運河でも1歳のメスのゴマフアザラシを保護したが、肺炎を起こして死亡した。これまでも石狩地方の海岸や後志地方でアザラシが保護されることはあったが、小樽市内の港湾でこのように次々と若いアザラシが保護されることはこれまでになかったことで、原因の究明が待たれる。

●密漁か？港内で袋入りナマコ発見

「黒いダイヤ」とはなんのことでしょう？北海道後志管内寿都町の寿都漁港に潜っていたダイバーがナマコ220kgが袋に入ったまま沈められているのを発見した。寿都警察署が密漁の疑いで調べているが、ナマコの価格は120万円相当という。中国の大量買い付けなどで価格が高騰しているナマコは全国的に資源が減少し、日本でもっとも普通に生息していたマナマコさえも希少種になりつつある。漁業が乱獲によって海の生き物を減少・絶滅に追いやる身近な例になりそうである。寿都署では、この前日に港内で不審なダイバーに職務質問したが、密漁の証拠がないため取り締まられなかったという。

【東北】

●大量の放射能が海に流出？

3月11日午後2時半頃発生した大地震で、福島第一原発と福島第二原発で原子炉が緊急停止した後、緊急冷却装置がすべて働かなくなり、1号炉、2号炉、3号炉で炉心溶融が起きている。その際に、炉心格納装置の爆発を防ぐために内部のガス抜きを行った結果、大量の放射能が空気中に排出されたことが報道され、当然ながら重大な関心を集めている。ところが、炉心冷却装置が使えず、最後の手段として取られた海水の注入によって、放射能で汚染された海水が大量に海に放出されていることは、いっさい報道されていない。しかし、海の生き物に対しては、この海水の放出は今後大きな問題となるであろう。もちろん炉心の爆発という最終的な破壊を避けるために避けることができない選択であったのであろうが、今後私たちが海の漁獲物の汚染の結果を引き受けなければならないことになることは必至である。それにしても、原発は安全と言い続けてきた政治家や企業家、それに追従してきた労働組合(電機労連)の責任は大きい。

【東海】

●子ども21人 藤前干潟を守る「ガタレンジャーJr.」に認定

愛知県名古屋市港区にある藤前干潟で環境の大切さを学んだ子供たちを「ガタレンジャーJr.」として認定する式が藤前干潟活動センターであった。今年のガタレンジャーJrは2期生で、小学4年生から中学3年生までの21人。主催したNPO「藤前干潟を守る会」の辻淳夫理事長から認定証を受け取った後、干潟で野鳥の観察を行った。小学4年生の一人は「干潟の泥は思っていたよりずっときれいだし、生き物も多い」と干潟を好きになったと話していた。

●潮干狩りの季節 三河湾海岸で解禁日にぎわう

春が近くなり、昼間の干潮が大きくなってきた。本格的な潮干狩りの季節がまもなくやってくる。愛知県の吉良町梶島は三河湾に浮かぶ小さな島だが、潮干狩りのできる干潟として知られる。3月4日にこの梶島で潮干狩りが解禁になった。この日は多くの潮干狩り愛好家が集まり、強風をものともせず波打ち際でアサリなどの採集を行った。一色町の衣崎海岸や幡豆町の鳥羽海岸などでも潮干狩りが解禁となった。でも昔は潮干狩りに解禁などという言葉はなかったはずだ。いつのまに、なぜ禁止時期が作られたのだろうか。これも「コモングの悲劇」の例なのでしょう。

【近畿】

●天神崎でゴミ回収 全国から集合して実施

和歌山県田辺市の天神崎は、海岸の環境を守るナショナルトラスト運動で守られたことで知られるが、社会貢献活動を行う神戸市の「ユナイテッド・アース(UE)」と「天神崎の自然を大切にする会」が協力して、海底や海岸の清掃を行った。全国から大学生ら約70人

が参加するなど、ダイバー13人も参加して海岸と海底から多くのゴミを集めた。今回は、「海の再生プロジェクト」第1弾と称しての取り組みで、UEでは今後全国で展開したいという。UEはNPOや有識者、アーティストらの集合体で、社会的な課題の解決を目指す組織と言われる。しかし、ゴミの回収が課題の解決にどうつながるか、ホームページを見ても分からない。また、参加したダイバーからは、天神崎は他の海域と比べて磯焼けが進んでいないが、ウニが大量発生して海藻が少ない。定期的なウニの駆除が必要だと述べている。これも科学的な根拠がほとんどなく、どこかの磯焼けでウニによる摂餌が原因と聞くと、どんなところでもウニがいると「駆除しなければ」という非科学的な発想を持つ人がいる。もっと科学的な正しい解析に基づいた活動が必要であり、さらに言えば、人間が下手に手を出すことはむしろ自然を壊す結果になりかねない。自然を再生させるもっとも基礎的なやり方は、「自然の再生は自然に任せること」である（日本生態学会生態系管理委員会(編)「自然再生事業指針」より）。

【中四国】

●山口県知事が工事中断を要請 上関原発

福島県第一原発と第二原発の重大事故が進行中の14日、山口県知事は緊急記者会見を開き、上関原発建設のための埋め立て工事を強行している中国電力に対して、準備工事に関してはこれからの国の対応を見極めて、きわめて慎重に対応するように申し渡した。これは事実上、埋め立て工事を一時的に中止するよう求めたものである。中国電力も「申し入れの趣旨は重く受け止める」と答えた。福島原発の重大事故を目の前に、さすがの山口県知事も工事強行を認めるわけにはいかなかった。しかし、これだけの事故がなければ、原発の危険性に気づかないとしたら、県民の安全を任せられる資格はないのではないか。

●鳥取県内でアワビの感染症 日本で初めて

鳥取県湯梨浜町石脇にある県栽培漁業協会の施設の中で、クロアワビの稚貝からアワビ類特有の感染症「キセノハリオチス」を確認した。これはウイルスよりも小型のリケッチアを病原体としている感染症である。日本ではアワビ類の感染症が見つかったのは初めてのこと。欧米では1980年代から報告されている。アワビ以外の動物には感染しない。感染した6600個体が死亡し、これまでに約1万3千個体を殺処分したという。感染ルートは不明のままであるが、残っているアワビ類の稚貝には感染症の様子は見られないという。県ではこの稚貝を放流した漁場からアワビを採取し、感染症に有無を調べる予定である。

【九州】

●五島沖で樹齢250年のハマサンゴ発見

長崎県五島市福江島沖の黒島付近の海底から巨大なハマサンゴの塊が発見された。見つけたのは地元のダイビングショップの経営者。北海道大学大学院の渡邊剛講師らに知らせ現

地調査した結果、このハマサンゴ群落は年齢約 250 年と推定した。ハマサンゴは主に熱帯や亜熱帯の浅海に見られるが、北限に近い福江島周辺でこれほど年齢の高いものはきわめて珍しい。渡邊講師はこのハマサンゴからサンプルを採取し、過去 250 年間の海洋環境の歴史を解明したいと話している。

●「潜り開門」方式で泥巻き上げ抑制 経塚九大教授が諫早で講演

九州大学の海洋環境工学の専門家経塚雄策教授は、諫早市内で講演し、諫早干拓事業の潮受け堤防排水門を開門する問題で、開門すると泥を巻き上げてかえって有明海の環境を悪くすると言う反対派の主張に対して、排水門の下部をわずかに開ける「潜り開門」によって「開門で生じる流速を制御し、海底の泥の巻き上げを押さえることができる」と主張した。講演会は「諫早湾の干潟を守る諫早地区共同センター」が主催して開かれた。また、教授は調整池内の干満差を 1.2m と少なくとも 4 分の 1 程度の干潟を復元できるとコンピューターシミュレーションで示した。経塚教授は「時間をかけてゆっくり開門すれば急激な変化は起こらない。干潟を再生させることで、干潟生物の水質浄化能力にも期待できると語った。

●カンムリウミスズメの観察会開かる

宮崎県門川町の鳥に指定されているカンムリウミスズメの観察会が、門川町教育委員会の主催で門川湾で開かれた。カンムリウミスズメは、国の天然記念物にも指定されている希少な海鳥で、日本固有の種。ほかのウミスズメ類がほとんど北方の寒い海に棲むのに比べ、カンムリウミスズメのみが温かい海に棲む。門川町の批榔島では約 3 千羽のカンムリウミスズメが繁殖する世界最大の繁殖地である。昨年 11 月に国の鳥獣保護区・特別保護地区に指定されたことを記念して、観察会を開催したもので、親子連れなど 25 人が参加して自然のすばらしさを堪能した。

【沖縄】

●名護市東江海岸高潮対策事業の経過と私たちの見解

名護の自然を守り次世代に伝えたい市民の会

連絡先／吉元宏樹 名護市大西 2-3-14 (080-4280-7255)

名護市の入り口に位置する東江海岸（沖縄海岸国定公園内）において、平成 13 年度～22 年度の工期で沖縄県土木建築部北部土木事務所を事業主体とする高潮対策事業が進められている。現在、事業区域の半分は「人工リーフ・護岸・養浜」のすべてが完成し、残り半分の最終段階の養浜工事の直前（昨年秋）に、私たちは埋め立て前の沿岸部分に生きたサンゴ礁生態系を発見し、生物調査を行った。

わずか 230m×90m の人工リーフ内に、失うにはあまりにも惜しい多種多様な生態系が確認された。特筆すべきは沖縄でみられるクマノミ 6 種のうち 3 種がこの狭い範囲に確

認できたこと（その後の業者の調査では4種類を確認）。また、サンゴは研究者が潜水確認したところ、すでに1998年の白化現象で1回は死滅した後、最低5年程は再生したものだとのこと。

私たちはまた、この人工リーフの礁池の真ん中に名護のシンボル銘木「ヒンプンガジュマル」に匹敵する歳月を生き続けている巨大なハマサンゴを発見した。私たちが調べたところ、高さ3.5m、周囲12mに達し、ハマサンゴは一年に約1センチほどしか成長しないということから、このハマサンゴはおおよそ300年は越えているのではないかと推定される。このまま砂による埋め立てが進められれば、私たち名護市民は1998年のサンゴの大白化現象からも生き残った貴重な名護湾の歴史の証人を永遠に失うことになる。

沖縄県の2009年度の本島海域のサンゴ礁初調査報告書では、「1970年代と比較して（沖縄島周辺の）サンゴ被度は大きく減少し、その後の回復は十分でない」と指摘、サンゴ礁の被度が10%以下である区間が全体の8割に上ることが判明した。この報告によっても明らかのように、ハマサンゴは様々な環境負荷に強く、これからの沖縄島のサンゴ礁生態系にとって優先的な位置を占め、自然生態系の回復の基礎となり得る種である。この小さなサンゴ礁生態系内では、サンゴの被度は5～10%と低いものの、過去の負荷にも耐え300年も生き続けているハマサンゴを中心に安定した環境の中でサンゴの幼生や多種多様な生物相が自然の力で再生しつつある。

私たちはこの間、北部土木事務所および沖縄県土木建築部との情報交換や要請を繰り返して行ったが、この護岸工事はすでに完工間近であること、高潮対策事業として「人工リーフ・護岸・養浜」は一体のものであり、最後の1箇所だけ砂を投入しないということではできない、環境保全措置として埋められる場所にあるサンゴの移植を行っている、一日も早く完成させたいという県の姿勢は変わらなかった。現実にこれほどの生きたサンゴや様々な生物が生息しているながら、それを生き埋めにして新たにサンゴの移植を行うという「環境配慮」に、私たちは到底納得できない。

また、防災対策としても、事業が開始され、人工リーフと護岸が整備されて以来、高潮による大きな被害は起きておらず、一方で、養浜による新たな飛砂被害が発生し、周辺住民からも苦情が出ている。また、養浜された砂が海流によって大きくえぐれたり、海中が白濁して見通しがきかないなど、新たな危険性も生じている。そのため、私たちは防災事業の観点からも、砂を入れ養浜した人工ビーチと、砂を投入しない護岸とを比較対照する事例としてモニタリングすることを提案してきた。

日本復帰後の埋め立てによって失われて久しいと考えられていた名護湾の生態系は、その自然の持つ回復力によって再生し始めている。サンゴの研究者・専門家によって現場海

域のサンゴ礁生態系の価値は高く評価されており、安全面も含め児童生徒の環境教育の場として最適であり、また名護市の観光資源や自然再生事業の場としての可能性に満ちている。工事開始から10年が経過し、時代状況や住民・市民の意識にも変化があり、現場海域に残され、再生しつつあるサンゴ礁生態系を知った住民・市民は一様にこれを残して欲しいと要望している。生物多様性の保全・回復が国や県の重要な戦略となっている現在、埋め立てによって失われた名護湾の生態系を再生していく拠点になるとともに、住民生活の安全と生物多様性の保全が両立する新たな海岸防災のあり方をつくっていくモデルケースともなりうる私たちは考えている。

それらのことから、私たちは、

1. 地元住民、市民、研究者や専門家、担当行政、業者など、この事業に関係するさまざまな立場、さまざまな意見を持つ主体が一つのテーブルを囲み、合意点を見出すための円卓会議を貴事務所の主導で開催すること
2. 上記円卓会議において合意点を見出すまで砂の投入を凍結すること

を沖縄県および北部土木事務所に要請してきた。

しかし、北部土木事務所はその要請に返答しないまま、2月10日より砂の投入を強行。週明けの14日には、まだ夜の明けない6時過ぎから作業を強行し、納得できない市民による現場での抗議行動の中で、市民の眼前30センチのところではパワーショベルのショベルが振り回されるなど、いつ怪我人が出てもおかしくない危険な状況があった。

そのような事態に対する抗議と現場における市民の座り込みにより、現在のところ、それ以降の工事は進んでいないが、すでに埋め立て用の砂は名護市内の集積所に積まれており、いつ作業が再開されるかも知れない状況は変わっていない。

一方で北部土木事務所は、私たちの要請した「円卓会議」の開催に向けて動き出しているが、その間の作業の一時凍結には応じられないとしている。

また、「円卓会議」を誰が主催するのか（北部土木事務所としては主催できないとのこと）、行政の単なるアリバイ作りや、早く事業を進めて欲しいと言う人たちもいる地元・東江区分住民との不毛な対立に終わらないためにはどのような準備と会議運営をすればよいか、というハードルがある。

最終的な合意点がどこに見出せるかはわからないが、仮に「埋め立てやむなし」となったとしても、この問題を契機に、地元住民や市民の中に自然生態系やサンゴ礁への認識が高まり、自然との付き合い方、公共工事のあり方の再検討、利権がらみの金の流れを変えることにつながっていけば、将来に向けて同じ過ちを繰り返すことを防ぐことができる。この小さな海が名護湾の再生に向けた大きな可能性を持っているのと同様、この事例に真剣に取り組むことは、自然と人の暮らしの両立に向けた、よりよい方向を見出していく大

きな転換点となるだろう。

文責・浦島悦子 (090-7586-3348)

2. 海の生き物を守る会活動予定

●今年の観察会・講演会

海の生き物を守る会では、今年も海辺の自然観察会と海の生き物を守る講演会のセットを、和歌山県、茨城県、北海道、沖縄県などで開催予定ですが、今回の東北太平洋沖地震の影響を見定めて、計画を作成したいと思います。実施する場合は、あらためてお知らせします。そのときは、ご参加をお待ちしています。

●海の生き物と環境に関するデータベース

海の生き物を守る会では、研究や観測、調査でとられた海の生き物と環境に関するデータベースを作っています。みなさまの手元に研究、調査、観測をした結果のデータが眠っているか、もしくは捨てられようとしているデータがあれば、海の生き物を守る会にお送りください。電子情報でいただけると有り難いのですが、紙の情報でも構いません。卒業研究で調べたデータがそのまま眠っていたり、報告書に書いただけのものなどがあれば、捨ててしまうのは無駄です。いつか役に立つ時があります。過去のデータがなくて、現状がきちんと把握できないことも多いのです。ぜひデータを寄贈して下さい。

3. 海の生き物を守る会活動報告

●ジュゴンスタディ・ツアーを実施 ミンダナオ・プハダ湾

「海の生き物を守る会」では、今年もジュゴンスタディ・ツアーを開催した。京都大学フィールド科学教育研究センターのジュゴン調査に同行するもので、今年是一名が参加した。今年、例年観察を行ってきたミンダナオ島のマリタにおいてジュゴンの観察と河川および藻場の調査を行った後、東ダバオ州に移動して、最近打ち上がった若いジュゴンの氷詰め死体を観察した。その後、プハダ湾で潜水によるジュゴンの食み跡観察を行った。その際、船から大型のジュゴンが6頭、群泳するのを見ることができた。次号に参加者の感想を掲載予定。

4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

東北太平洋沖地震の影響で多くの行事が中止や延期になっています。以下の開催情報も変更になっている場合が多いと思われるので、あらためてホームページその他で確認してお出かけください。

【国際】

●for sustainability 持続可能な社会に向けて 4つの“bridge スタディツアー”
～環境と調和して生きる“海の知能”イルカ・クジラの選択！

オーストラリア:循環と共生のなかで生きる～持続可能な社会へ

2011年7月16日(土)～23日(土) 6泊8日

*海の日(祝日)を挟んだ日程です。



パーマカルチャー(持続可能な社会)の発祥の地、クリスタルウォーターズでのプログラムの他、都市生活者に浸透し始めた新たな流れをいくつかのエコビレッジや市民農園を訪ねて視察します。現地の方との交流プログラムも用意しました。また、自然と共生して生きる叡智にあふれる先住民族アボリジニの自然観と暮らしを、彼らがガイドするフィールドプログラムのなかで直に触れる、スペシャルな体験もあり！

◎ツアー日程などの詳細は、[【こちら】](#)をご覧ください。

■参加費：368,000円(予価) *全プログラム日本人通訳・ガイド付き

上記予価は、昨年の航空運賃と2011年1月10日現在のレート(1豪ドル=82円)で計算をしています。

【全国】

●映画「祝の島」上映会

「祝の島」こたつ団らんツアー

映画『祝の島』をより日常に近い距離でご覧頂く上映ツアーです。この映画たくさんの方たちに届けたい、という思いから始まりました。上映機材はすべて持ち込み、スタッフが出張して上映する、映画の出前のような新しい試みです。

スケジュールは以下の通り

日時	場所	会場	問合せ先
3月20日(日)	和歌山県	粉河ふるさとセンタ	090-8210-8201
16:00～	紀の川市	— 小ホール	(竹田米穀店 竹田)

3月20日(日)			070-5454-1980
3月21日(月祝)	千葉県	浦安市民プラザ	info★urayasu-doc.com
20日 16:50～	浦安市	WAVE101	(浦安ドキュメンタリーフェスティバル 中山)
21日 16:20～			
3月21日(月・祝)	兵庫県 神戸市	健康道場 サラ・シャンティ	090-7366-8288 (柳)
4月3日(日)	東京都 小金井市	<u>現代座</u>	0466-26-6101 (<u>パパラギ</u> 事務局)
4月3日(日)	神奈川県 茅ヶ崎市	パパラギ 茅ヶ崎店	0466-26-6101 (<u>パパラギ</u> 事務局)

【関東】

●千葉県沖ノ島無人島探検の開催日程【予定】

日程：2011年3月 20(日) 21(月) 26(土) 27(日) 28(月) 29(日)

集合場所：沖ノ島国定公園看板前 沖ノ島へのアクセス

集合時間：AM9:30 PM13:00より受付

所要時間：AM 10:00～12:30頃 PM 13:30～16:00頃

定員：各20人

参加費等：1人1,500円小学生以上※ 4年生未満は保護者同伴で参加

●長崎大学シンポジウム

日時 2011年3月22日(火) 13:00～17:20 開場12:30 (予定)

会場 都市センターホテル コスモスホール (東京都千代田区平河町2-4-1)

受講料 無料 (事前登録制)

申込先 <http://ac.nikkeibp.co.jp/nng/nng01/>

【プログラム】

13:00～13:10 開会挨拶：片峰 茂（長崎大学学長）

13:10～13:20 「東シナ海は地球環境の縮図」中田 英昭（長崎大学大学院生産科学研究科長）

13:20～14:20 【基調講演】「海・生物・環境を考える」養老 孟司（東京大学名誉教授）

14:20～15:05 【講演 1】「東シナ海の海洋環境と持続可能な開発」寺島 紘士（海洋政策研究財団常務理事）

15:20～15:40 【講演 2】「東シナ海ではいま…研究現場からのメッセージ」征矢野 清（長崎大学環東シナ海海洋環境資源研究センター教授）

15:40～17:20 【パネルディスカッション】「東シナ海の魅力と重要性」

パネリスト 内田 詮三 氏（沖縄美ら海水族館館長） 寺島 紘士 氏（海洋政策研究財団常務理事） 八木 信行 氏（東京大学海洋アライアンス特任准教授） 河本 和明（長崎大学環境科学部准教授） 山口 敦子（長崎大学水産学部教授）

モデレータ

藤田 宏之（日経ナショナル ジオグラフィック社 編集担当）

申込先 <http://ac.nikkeibp.co.jp/nng/nng01/>

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会+鎌仲監督トーク&ゲスト対談 in 品川

日時：2011年4月8日（金曜日）開場 13:30/上映&監督トーク 14:00/ゲスト対談 16:40～

場所：東京都品川区西品川1-28-3 ([地図](#)) 品川区立中小企業センター/品川区西品川1-28-3

【参加費】一般 1000 円/シニア、18 歳以下の割引あり。主催者にお問い合わせください。

【主催】「ミツバチの羽音と地球の回転」品川上映会実行委員会（共催：品川・生活者ネットワーク環境部会）

【問合せ先】市川/03-5751-7105/ shinagawa@seikatsusha.net

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会&鎌仲監督+坂田昌子さん（虔十の会）トーク in 八王子 ★トランジションタウン関東里山地区リレー上映★

日時：2011年4月9日（土曜日） 第1回 11:30/第2回 15:00/第3回 18:30

場所：東京都八王子市台町 2-3-7 ([地図](#))八王子市民体育館/八王子市台町 2-3-7

【参加費】前売り大人 1000 円/当日大人 1200 円/中高生以下...主催者にお問い合わせ下さい

【主催】「ミツバチの羽音と地球の回転」トランジションタウン関東里山地区リレー上映実行委員会

【問合せ先】トランジションたま/042-635-0669/ lpeo@mail.goo.ne.jp

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会&鎌仲監督トーク+UA さんライブ in 藤野★トラン

ジシヨントウン関東里山地区リレー上映★

日時：2011年4月10日（日曜日）第1回15:00／第2回19:00

場所：神奈川県相模原市緑区牧野4611（[地図](#)） 藤野倶楽部・直子の台所／相模原市緑区牧野4611

【参加費】前売り大人1300円／中高生800円／小学生以下...主催者にお問合せ下さい／当日プラス200円

【主催】「ミツバチの羽音と地球の回転」 トランジシヨントウン関東里山地区リレー上映実行委員会

【問合せ先】 トランジシヨントウン藤野／042-682-0255／ fujinode888@yahoo.co.jp

【中部・北陸】

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会+鎌仲監督トーク in 佐久市

日時：2011年3月26日（土曜日）第1回上映14:00～16:15／休憩16:15～16:30／監督講演16:30～18:00（講演60分、質疑応答30分）／休憩18:00～18:15／第2回上映：18:15～20:30

場所：長野県佐久市佐久平駅南4-1（[地図](#)） 佐久勤労者福祉センター・ホール／佐久市佐久平駅南4-1

【参加費】前売1000円／当日1200円／高校生以下は主催者にお問い合わせください

【主催】「ミツバチ」上映実行委員会あさま 【問合せ先】ササキ／090-9069-8208

【東海】

●ウミガメ勉強会

昨今の環境問題の高まりから、「ウミガメ放流会」や「ウミガメの卵の移植」の問題が各地でクローズアップされるようになりました。そこで、ウミガメに関する正しい知識啓蒙の為、掲題の勉強会を開催するはこびとなりました。この機会に、ウミガメ関係者は勿論の事、行政関係者や教育者まで、多くの方々にウミガメに関する理解を持っていただければと思います。講師には、下記のとおり「ウミガメ研究」の第一人者であります阿部寧氏にお願いをいたしました。多くの方々のご参加をお待ちしております。

日時 2011年3月26日（土）午後1時30分～3時30分

場所 [牧之原市相良公民館](#) 静岡県牧之原市須々木854-10 TEL 0548-52-1021

講師 阿部 寧氏（遠洋水産研究所）

課題

- ・石垣島のウミガメ産卵生態
- ・ウミガメの混獲対策
- ・東南アジアのウミガメ保全状況

【近畿】

●奇跡の海 瀬戸内海生物多様性のホットスポット

上関の自然を守ろう！原発建設を止めよう！ 関西の集い

3月20日（大阪）：14：00～17：00

場所：エル・おおさか（天満橋）2F文化プラザ

講演：向井宏 京大フィールド科学教育研究センター特任教授

「上関の海の生き物の多様性と重要性、原発の問題点」

●堺 2 区自然体験イベント

都会の海でいきもの発見！観察会

～生物共生型護岸ってなんだろう～ ヤドカリレースもあるで！

開催日	3月21日（月・祝）雨天中止
開催場所	堺 2 区生物共生型護岸
集合	10時匠町バス停または現地 10時15分 匠町バス停から現地まで（徒歩約15分）は案内します。
交通	南海線堺駅西口 9時45分発、または地下鉄四つ橋線住之江公園 9時30分発で9時45分ごろ着。いずれも匠町行きバス※マイカーはご遠慮ください。
解散	12時30分ごろ現地
持ち物	長靴、飲み物、筆記用具、必要に応じて軍手、着替え、弁当（解散後、現地で弁当を食べていただくことができます。近隣の堺浜えんため館にはレストランがあります。）
参加費	無料
対象	どなたでも参加できます。中学生以下は保護者同伴。
定員	メール先着 30名
申し込み	下記アドレスあて、参加者全員のお名前、ふりがな、住所、電話番号、メールアドレス、こどもさんの場合は年齢を添えてお申し込みください。折り返しメールにてご連絡しますので、nature.or.jpからのメールを受け取れるようにしてください。（定員に達しない場合でも締切は3月18日とします） 申込み・お問合せ用メールアドレス sakai2ku@nature.or.jp
プログラム	都会の海辺に生き物をよみがえらせる生物共生型護岸。ここで小さなコウロエン

	カワヒバリガイと潮の満ち干の関係、フジツボのえさ取り、水をきれいにしてくれるカキ、ヤドカリの引越しなどを観察して、海辺の未来を想像します。ヤドカリレースも開催！
主催	(社)大阪自然環境保全協会、大阪湾見守りネット、国土交通省近畿地方整備局 神戸港湾空港技術調査事務所

●渡り鳥を守るゴミ拾い 淀川海老江干潟

淀川の海老江干潟は多くの野鳥が集まります。特に春秋の渡りのシーズンには長距離を渡る干潟の鳥シギ・チドリ類が採餌に飛来します。ところが、ここには鳥が絡まり命を落とす釣り糸や多くのゴミが漂着しています。鳥が安心して干潟で過ごせるようにこれらの回収作業をします。みなさんご参加ください。

集合日時 2011年3月20日(日)10時30分 小雨決行

集合場所 阪神本線「淀川」駅改札前 梅田から約10分(普通列車しか止まりません)

解散 12時30分ごろ 現地解散

持ち物 野鳥観察用具、軍手、火ばさみ、湿った干潟に入るの出来れば長靴、濡れても良い履物

参加費 (資料代・保険料) 大人100円、中学生以下50円

主催 (社)大阪自然環境保全協会「淀川自然観察会」

問い合わせ 中野勝弥 072-444-4312(20~22時) 090-2350-2003(当日)

【中四国】

●映画「ぶんぶん通信」上映会

「ぶんぶん通信 no.1&no.2」上映会+バザーin 岡山市

日時:2011年3月19日(土曜日) 開場 13:00 / ぶんぶん通信 no.1 上映 13:00 / バザー 14:00
/ ぶんぶん通信 no.2 上映 15:00

場所:岡山県岡山市中区平井 4-13-33 ([地図](#)) 岡山市立東山公民館 / 岡山市中区平井 4-13-33

【参加費】主催者にお問い合わせください

【主催】「ミツバチの羽音と地球の回転」岡山上映実行委員会

【問合せ先】赤井 / 090-5373-6791

●「奇跡の海を守ろう 上関の生物多様性」国際シンポジウム

日時:2011年4月10日(日) 10:00~17:00

場所:広島市平和祈念公園内 国際会議場「ヒマワリ」

プログラム:第1部 カンムリウミスズメについて

第2部 ウミスズメ類の調査と保全について

奇跡の海を守ろう

“カンムリウミスズメと上関（瀬戸内海）の生物多様性”
国際シンポジウム



日 時 2011年4月10日（日）10:00～17:00
場 所 広島市平和祈念公園内 国際会議場「ヒマワリ」
趣 旨
瀬戸内海で最後に残された生物多様性のホットスポット“かみのせき”（山口県上関町）。ここは国の天然記念物で国際的な保護鳥でもあるカンムリウミスズメが世界で唯一、1年を通じて生息する“奇跡の海”です。ところが上関では原子力発電所建設計画が進行しています。本シンポジウムではカンムリウミスズメと上関の生物多様性保護について海外からのパネラーもお招きし、国際的な視点から考えます。

プログラム（予定）

第一部 世界的な希少種 カンムリウミスズメについて（10:00～12:00）
「海鳥の目から海洋環境を見る」 綱貫 豊（北海道大学）
「瀬戸内海西部における非繁殖期のカンムリウミスズメの生態」 飯田知彦（鳥類・生態系研究者）

第二部 ウミスズメ類の調査と保全対策について（13:00～15:15）
「アメリカとメキシコにおけるセグロウミスズメの保護と研究(1991-2010)」
Harry R. Carter (Carter Biological Consulting)
Darrell L. Whitworth (California Institute of Environmental Studies)

第三部 上関（瀬戸内海）の生物多様性とその保護について（15:30～16:15）
「周防灘に残されている瀬戸内海の原因」 加藤 真（京都大学）
「生物多様性保全の観点から～3学会の取り組み」 佐藤正典（鹿児島大学）

主 催 長島の自然を守る会 協 賛 LUSH
カンパ振込先 郵便振込 01340-8-44688 長島の自然を守る会

お問い合わせ先
高島 美登里（長島の自然を守る会・代表）
携帯In.090-8995-8799 Fax 0820(62)0710
E-mail midori.t@crocus.ocn.ne.jp



第3

部 上関の生物多
様性の保護につい
て

使用言語：英語・日
本語（同時通訳有
り）

【九州】

●早春の生きもの観察

☆今年、最初の干潟観察。春の干潟には、どんな生きものがいるんだろう？この春に生まれたちっちゃな生命に会えるかな？

日時：2011年3月21日（月・祝） 11:00～14:00

場所：藤前活動センター

集合：午前11時00分 藤前活動センター1階

※集合15分前より受付を開始します。

対象：幼児～大人

定員：30名

参加費：おとな200円 小中学生100円

持ち物：筆記具、帽子、飲み物、弁当、タオル、防寒着 あれば双眼鏡

参加申込・問い合わせ：080-5157-2002（干潟の学校専用ダイヤル）

※3月11日より参加受付を開始します。

※月曜、第3水曜をのぞく、9：30-16：00まで受け付けます。

●映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映会

「ミツバチの羽音と地球の回転」宮崎リレー上映会 in 綾町

日時：2011年3月19日（土曜日）開場13：00／上映13：30

場所：宮崎県東諸県郡綾町南俣498-1 ([地図](#)) 雑木林／綾町南俣498-1

【参加費】大人1000円

【主催】“ミツバチの羽音と地球の回転”宮崎県実行委員会

【問合せ先】ゴウダ／0985-77-0045

「ミツバチの羽音と地球の回転」宮崎リレー上映会 in 延岡市

日時：2011年3月21日（月曜日）開場18:00／上映18:30

場所：宮崎県延岡市東浜砂町611-2 ([地図](#)) 延岡総合文化センター／延岡市東浜砂町611-2

【参加費】主催者にお問い合わせください

【主催】“ミツバチの羽音と地球の回転”宮崎県実行委員会

【問合せ先】カイ／090-1160-7689

5. きらめく動物たちの命と海 【久保田信の白浜だより(その2)】

第1話 プロローグ： 隠された謎がいっぱい 神秘の海は“生命の母”

みなさん、こんにちは。私は生まれも育ちも、「坊ちゃん」や道後温泉などでよく知られる松山っ子です。松山東高（松山中学）もその小説のモデルになっていました。大学院以降の17年間、札幌で奮闘努力の末、こちらに転勤しました。白浜で故郷そのままの、いやそれ以上の自然の素晴らしさ、空気や水のうまさを賞味し、はや18年が過ぎました。

フィールドワークの盛んな京都大学のトレードマークにあやかり、白浜近郊はもとより和歌山県全域、さらには日本全国、世界の海へと出かけ、多様な海洋生物を研究する日々が続いています。象牙の塔だった大学も2004年からすっかり様変わりすることが決まった昨今、白浜町臨海にある瀬戸臨海実験所もすでにこの春からフィールドワークに焦点をあ

てた教育研究機関として組織が再編成されたばかりです。このフィールド科学教育研究センターは、全体では、無脊椎動物から脊椎動物および森や里の植物までさまざまな専門家でカバーできる研究が、人間生活とも関わり合わせながら、個々に、あるいは共同で進められています。これからは、ますます地域に根ざしながらも日本全土、そして世界へむけた多角的な発展が必要となっています。そういった事情も鑑みながら、人の暖かさ・清潔・安全で信頼できるお国柄で、海・山に囲まれた素晴らしい自然が残っている大好きな島国、日本、とりわけ日々の暮らしを有意義に過ごしている南紀白浜から発信したいと思います。世界を旅するごとに日本のよさは実感を伴って、ますます確固としたものになっています。本稿では、そのような人生の旅の途中で私が出会った有名・無名の生物や人物に登場してもらい、現在進行中のリアルタイムな話題として提供したいと考えています。

(1) 私の生物観察日課

私は、日課として、瀬戸臨海実験所の周辺海域で生物探査をしており、めくるめく発見もしばしばあります。まだまだ隠された謎はいっぱい残っています。具体的には、瀬戸臨海実験所のすぐ目の前の、通称「北浜」でシュノーケリングによるクラゲ類を中心としたいわゆる腔腸動物の観察・調査や、漂着したクラゲ類その他さまざまな生物たちの素性調べなどを行っています。また、すぐ近くの漁港にも通って、そこで出会えるクラゲ類や生物たちもノートにつけています。さらにはプランクトンネットを曳いて採取したクラゲ類などを実験室で飼育し、精子や卵といった配偶子からアダルトまでの一生の変化を日々追っています。日に日に変化してゆくクラゲたちの形、いわゆる変態の紹介もしたいと思います。

(2) 究極の研究目的

私の究極の研究目的が二つあります。「種の起源」と「生命の神秘」の解明です。生物にはとても深遠な謎が隠されています。生きていることはどういうことでしょうか？また、気の遠くなるような年代のうちに種がどのように変化していくのでしょうか？海は宝箱でこの謎を解く鍵があり、海の生物に知られざる神秘が秘められているのです。生命の母なるゆえんです。そのきわめつけをこのシリーズの最初に紹介しましょう。それは、世界中の多細胞動物では、ただ1種、繰り返し「若返る」ことができる、いわゆる不老不死の生物で、私が研究の専門にしているベニクラゲです。ベニクラゲを含むヒドロクラゲ類を中心とした生物学的な話も展開したいと思っています。生物たちのもつ不思議な能力や生命力はもとより、その種の一生の話も織り交ぜ、生命の謎に迫ってみましょう。

小学生の皆さんからお母さんお父さん、おじいさん、おばあさん、友人・知人仲間まで、ごいっしょに読んで下さい。そして、「自分も現場に出向いて同じようにやってみよう」、「記録をつけてみよう」という気持ちがわいてきたら嬉しいです。さらには、自然保護・保全への橋渡しの材料にしたり、生物学者や哲学者を目指すきっかけになれば望外の喜び

です。とりあえずは週1回のペースで話を進めます。時には過去に遡ったり、日本各地や世界の海からの報告も交えることになるでしょう。何が飛び出してくるか、どうか楽しみにして下さい。

瀬戸臨海実験所には素敵な水族館もあります。ここには年間700種もの海洋生物が約9000個体・群体も飼育・展示・解説されています。潜水しないと出会えないような生物たち、深みに生息する種族が、水槽でゆうゆうと暮らしています。生息環境を縮小コピー風に再現した3水槽もあります。また特集展示コーナーでは、ベニクラゲはじめ多様な動物分類群の代表種を標本で展示しています。ここでは、私が撮影した不思議なクラゲ類や漂着動物などの写真も楽しめます。水族館からの紹介も随時入れていきたいと思っています。(つづく)

6. 海の生き物とその環境に関する論文・本・DVDなど

●えりも町郷土資料館(編)「えりも町と日高管内の『海の生き物たち』 えりも町ふるさと再発見シリーズ4」 pp.43 2011.2 非売品 A4版横型

プランクトンから始まって、イソギンチャクやコケムシ、軟体動物はもちろん、甲殻類、多毛類などの海生無脊椎動物、海生哺乳類、海鳥、浜辺の昆虫など、えりも町の海で観察される多くの海の生き物を写真入りで集めたガイドブックである。とくに、北海道大学の研究者の協力を得て書かれた海藻類の種類は多く掲載され、この本の特徴となっている。多毛類のシリスが甲殻類のページに書かれているなど間違いも散見されるが、磯の観察会にはきわめて有用なガイドブックであろう。(高橋誼会員からの情報)

7. 事務局便り：

- この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催

をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。

- 本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ銀行口座「ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金される場合は、送金の内容について事務局にお知らせ下さい。

8. 編集後記

怖れていたことが現実となった。東北太平洋沖地震はたしかに大きい規模であったが、過去最大というわけではなかった。しかし、原子力発電所の事故は次々と起こり、私たちや海の生き物も死の恐怖にさらされている。その結果から、ようやく上関原発の一時中止が決定された。これは喜ぶべきなのか？ここまで目にしなければ原発の危険性が分からないという人たちの想像力のなさに唖然としてしまう。震災に遭われた人たちにはお見舞いの言葉をかけることさえはばかれるような大災害だった。いや、まだ現在進行中の災害である。海の生き物たちも多くが犠牲になったことだろう。人々の安全も、海の生き物の多様性も、これからは守られることを祈らずにはいられない。 (宏)

海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！

会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円／年、団体 20,000 円／年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp (向井) まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。



メールマガジン『うみひろも』第75号

2011年3月16日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」

代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町23-1

グリーンヒル北白川23

TEL&FAX:075-703-7205; 090-8563-1501 メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会